

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200362
法人名	社会福祉法人博安会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	香川県丸亀市垂水町1353番地 (電話)0877-28-2080

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価決定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年5月9日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	14,000円	
敷金	有()円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()100,000円 無	有りの場合 償却の有無	有()無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,920円			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今田医院、藤本歯科、三船病院、麻田総合病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざした、複合介護施設として7年前に開設し、昨年末に追加新設し、現在2つのユニットで地域の要望に対応した介護を行っているホームである。環境・立地条件の整った場所にあり地域との交流も盛んで、利用者は、地域の一員として行事に参加したり、役割や楽しみごとを個々の力量に合わせた支援をし、和やかに生活している。利用者の情報を家族・職員間で共有し、無理強いせずその人らしい生活が送れるような介護計画に基づき、利用者へ寄り添い、一人ひとりの生活を尊重した介護をしている。職員は、外部・内部研修に積極的に参加し、質の向上を目指しよりよい介護に取り組む意気込みが見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、運営推進会議のメンバー構成の追加が指摘され、直ちに検討し、新しくメンバーとして参加していただいている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価に取り組み、振り返りの機会となったが、各ユニットが工夫している点や目指していることをレポートされることを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月ごとに開催される運営推進会議で、ホームの利用状況や経過報告がなされ、外部のメンバーにより話し合いを行い、出された意見をホームのサービス向上につなげている。この、積み重ねが、さらなる質の向上となるよう、会議の記録はホームで保管することが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会と職員の意見交流の場や、家族の面会時、ホームでの暮らしぶりを伝え、家族からの意見や苦情、不安なことを話せる雰囲気にも努めている。いただいた苦情や意見は、管理者・職員で共有し、検討結果を返すとともに、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くの、小学校や保育園の児童と、登下校時に挨拶を交わしたり、散歩時に地域の人が声をかけてくれる。また、コミュニティセンターが近くにあり、地域の人々との交流を積極的に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のその人らしい暮らしを守りたいとの理念で、法人が複合介護施設として設立し、その理念にホームとしてのサービスのあり方を加え独自の理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で復唱し、理念を確かめ合い介護に取り組んでいる。時に、利用者との感情のもつれた時などには、理念に立ち返って冷静になり、利用者中心の介護が続けられている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに、小学校・保育所があり、登下校の際、子供たちが声をかけてくれる。コミュニティーセンターも近くにある、地域の人々との交流の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、話し合い、振り返りの場としたが、2つのユニットに格差がないようにとの思いから、自己評価の内容が全く同一文章となっている。	○	ホームの方針は、全体として同じ内容を目指して努力しているが、開設時期もかなり離れているので、各ユニットの工夫している点や、目指していることをレポートされることを期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに、開催される運営推進会議で、ホームの利用状況やサービス経過報告が行われ、出された意見をホームで検討しサービス向上につなげている。しかし、会議の実施記録を職員個人の記録に留めている。	○	運営推進会議での会議の内容の積み重ねを、ホームの質の向上につなげるために、職員が代わっても内容を確認できるよう、会議録を作成し保管することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	モデル地区としてホームも指定されており、常に市の担当職員と連絡をとり、サービス向上に努めている。また、計画作成担当者連絡会でともに質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の機会が多く、その都度ホームでの暮らしぶりや、健康状態を報告している。また、3か月ごとに、写真・金銭出納と近況報告のたよりを全員の家族にだしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年4回、行事の時に企画し、殆どの家族が参加し、職員との意見交流の場としている。また、日頃から面会時、家族の意見を聞くように心掛けていて、出された意見には、職員間で周知し、解決策を話し合い、結果を返すと共に、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は殆どなく、職員は2つのユニット間を交流し、利用者に全員で関わるシステムになっていて、異動時のダメージがないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出張扱いで積極的に参加し、ホームでの復命を行い職員間で学びを共有している。月一回法人全体の研修会を輪番制で企画・実施している。ホーム内での研修会も行い、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加し交流を図っている。また、丸亀市のグループホーム計画作成担当者連絡会が2か月ごとに開催され、同業者とサービスの向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用相談時、ホームの見学をし雰囲気に馴染んで貰い、その後職員が訪問、面接を行い、サービス開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や行楽に共に参加することで、一緒に楽しみ、料理作り、手芸、野菜づくりなどでは、年長者として利用者から学ぶことが多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、センター方式のアセスメントシートを改良した用紙を家族に書いて貰い、職員が関わる中で情報を追加して、本人の思いや希望の把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の関わりの中でどのように過ごしたいかの情報を得、家族の面会時希望を聞き、関係者が意見を出し合い介護計画を作成し、家族に確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画内容を常に認識するように、手書きで転記したのを見ながら介護を行う体制になっていて、毎日変化をチェックし、一か月ごとにサマリーを書き、3か月ごとに見直しを行っている。状態変化時はその都度、本人・家族・関係者と話し合い、利用者の状態に合った計画の作成を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の認可を受けていて、地域の要望に沿える体制を取っている。また、突発的な受診の送迎・付き添いの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者とかかりつけ医との関係は大切にしている。基本的には家族が付き添って受診しているが、日頃の状態の報告が必要な場合は、職員が同行している。歯科・皮膚科・精神科などは往診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用初期に、重度化した場合の対応を利用者・家族と話し合っている。基本的には、看取りは行っていないが、終末期には、希望により、馴染みの職員が尋ねやすい同じ敷地内にある特別養護老人ホームへの入居も選択肢としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員により、利用者の誇りやプライバシーを損なうような、言葉かけや対応は見られない。また、記録物の個人情報保護に関し職員は認識している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活パターンを尊重して、無理強いしない介護を行い、様子を見ながら声かけをして、参加の機会を待っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の調理場から、まとめて届けられる副菜に利用者と職員が作った主食と味噌汁を盛り付け、配膳して全員で食卓を囲み和気あいあいと食事を楽しんで、片付けも共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週3回の日勤帯で利用者の希望やタイミングに合わせての入浴としているが、希望者には、毎日でも入浴を楽しめる支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片付けを自主的に、役割として行ったり、茶道・習字・琴・野菜づくりや園芸を楽しむなど、個々の利用者に応じた張り合いや喜びを見出せる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物、事業所の周辺や近くの神社への散歩が日常的におこなわれている。また、郵便局や市役所へ職員がでかける際、希望する利用者が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室の施錠は基本的には行わないが、現在精神的に不安定な利用者があるため、内玄関に施錠しているが、職員は施錠に対する弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えて、夜間と日中を想定しての避難訓練を年2回実施している。近くに職員の住居があり、夜間災害時の応援が得られる。また、消防署の屯所が直ぐ近くにあり、協力体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の施設で、栄養士の献立により栄養バランスを考え調理された副食に、ホームで主食と利用者の好みの具材でつくった味噌汁を盛り付けていて、食事量や水分量は確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の愛好家から届けられたという菊の香りが漂う玄関を入ると、ゆったりと広い居間兼食堂には、利用者の作品が適度に飾られ、落ちついた共用空間となっており、調理の匂いに生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドとクローゼットに加え、個々に本人が好みの家具や装飾品などを配置し、居心地よく過ごせる工夫を支援している。		